

説明資料 ①

山鹿市都市計画マスタープラン
第4回 策定協議会説明資料

～全体構想編の一部、地域別構想編の一部～

令和5年7月5日(水) 14:00～



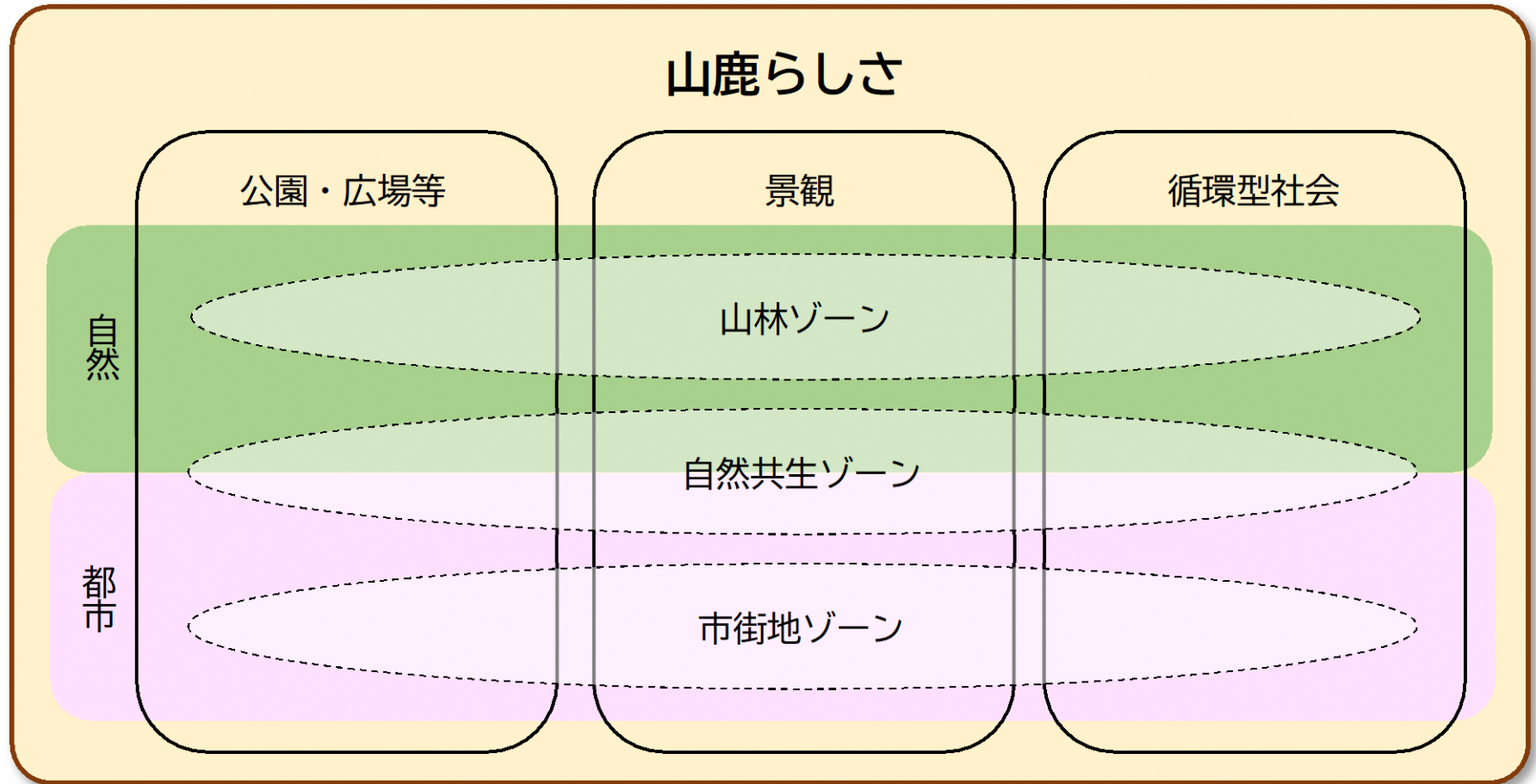
■全体構想編

1 まちづくりの方針	P. 3
1-1 山鹿らしさ	P. 4
1-2 生活環境施設	P. 14
1-3 安全・安心	P. 17

■地域別構想編

2 地域別構想について	P. 20
3 地域別のまちづくり方針	P. 22
3-1 山鹿地域	P. 23
3-2 鹿北地域	P. 32
その他	P. 40

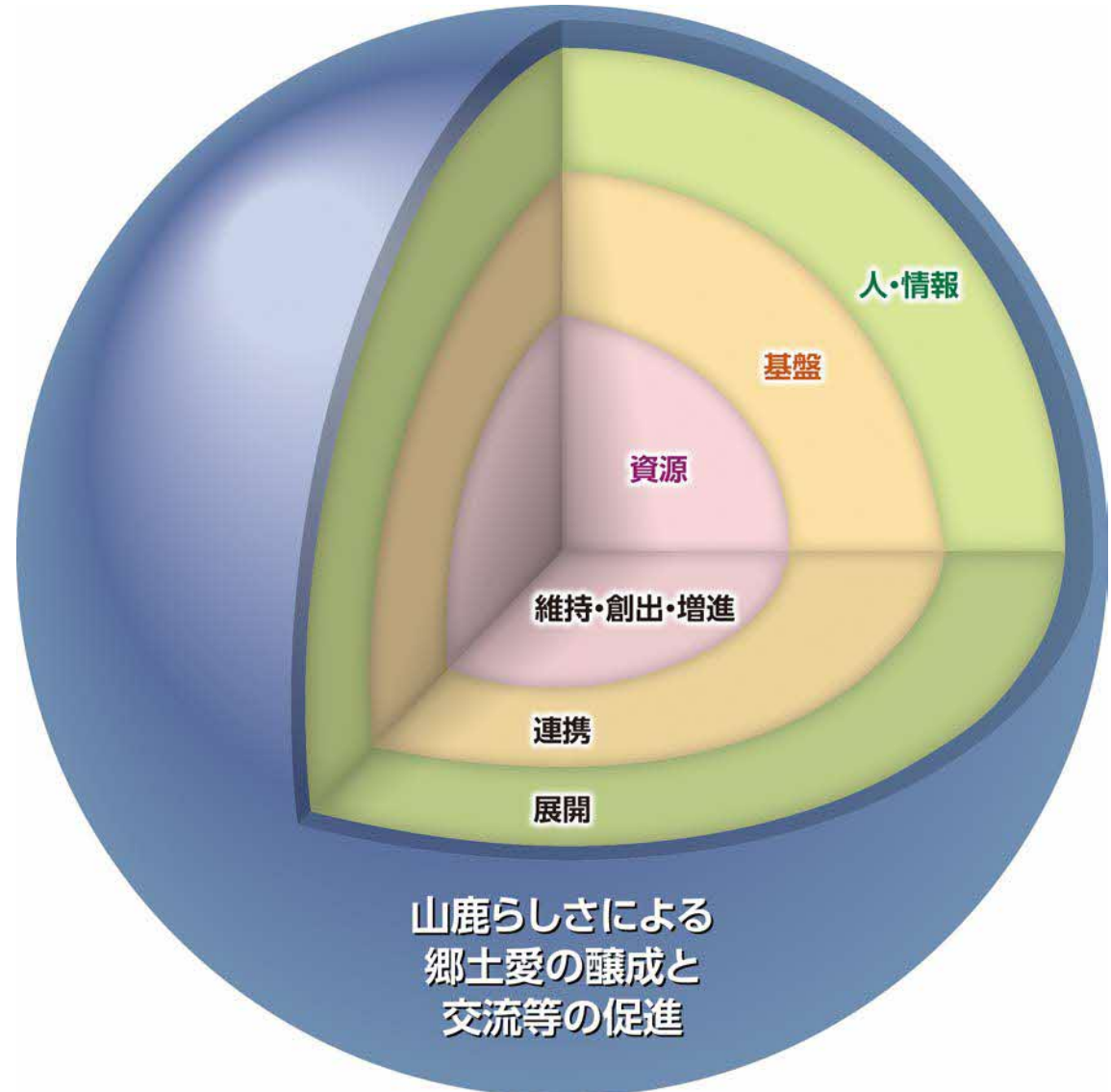
■山鹿らしさの体系 (イメージ)



▼山鹿らしさによる郷土愛の醸成と交流の促進

- ・豊かな自然環境や歴史・文化などの資源を維持・創出・増進（守り・創り・育て）し、基盤整備等によりこれらを連携（繋ぎ）させ、人や情報によりこれらを展開（活かす）することで、相乗効果による山鹿らしさ（魅力）の増幅を図り、郷土愛の醸成と交流等の促進につなげます。

■山鹿らしさによる郷土愛の醸成と交流等の促進 のイメージ



▼公園・広場等の機能充実と適正管理

- ・ 地域特性や市民ニーズ、求められる役割などを考慮した公園・広場等の適正配置と機能充実に努めるとともに、市民との協働による維持管理、民間活力の導入についても検討します。

▼山鹿景観の創出

- ・ 山鹿市景観計画に基づき、豊かな自然環境や魅力あふれる歴史・文化、活力ある暮らし・産業など、それぞれの特性を生かし、これらがほどよく融和した山鹿らしい景観の形成を目指します。

▼循環型社会の構築

- ・ 「コンパクト＋ネットワーク」のまちづくりを進める中で、資源・エネルギーの有効活用や環境負荷の軽減などにより、循環型社会の構築を目指します。

①山鹿らしさによる郷土愛の醸成と交流等の促進

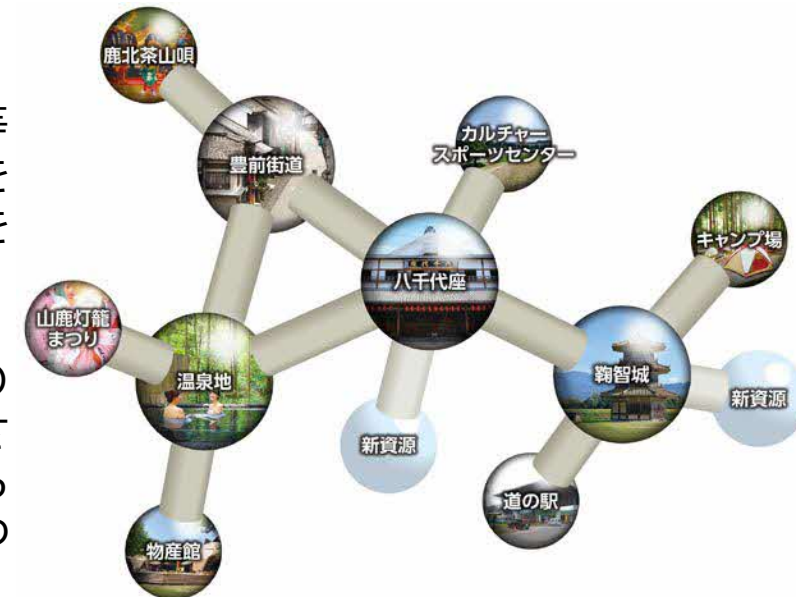
【山鹿らしさの資源】

- ・都市の骨格を成し、山鹿市の魅力や市民の郷土愛の源となる山林や農地などの豊かな自然環境について、これらが有する多面的な機能の効果が最大限発揮されるよう、適切に維持します。
- ・渓谷や温泉、肥後古代の森などの自然環境資源、鞠智城や八千代座、豊前街道、古代ハス園などの歴史文化資源、道の駅や物産館などの交流資源など、本市の魅力の核となる様々な資源について、自然環境や歴史文化、景観など、各資源を取り巻く環境を含めた機能の維持・増進を図ります。
- ・自然環境や歴史文化の掘り起こし、6次産業化などの産業振興、多様化する価値観への対応など、様々な可能性を探求し、新たな資源の創出に努めます。
- ・新たな民間活力の導入について、その可能性を検討します。

【山鹿らしさの基盤】

- ・都市の快適性の維持に不可欠な緑地に加え、様々な交流核等を有機的につなげる軸として、菊池川をはじめとする河川を位置づけ、水と緑のネットワークを構築し、多様な生態系を維持するとともに、自然環境を生かした多様な魅力の維持・創出につなげます。
- ・道路整備、サイン整備やサイクリングロードなど道路機能の充実、公共交通の機能強化などにより、多様な資源を連携させることで、アクセス利便性を高め、相乗効果による山鹿らしさの増幅を図り、市民や来訪者等による積極的な活用につなげます。

■連携のイメージ



【山鹿らしさの人・情報】

- ・市民や事業者の緑化活動等は、まちなかの潤いや景観の維持・創出に大きく寄与することから、緑に関する意識啓発や活動支援を図ります。
- ・また、地域が主体となって考え、創り、育てることが地域に最適なまちづくりとなり、郷土愛の醸成につながることから、これら協働の仕組みづくりを図ります。
- ・さらに、郷土愛を持っておもてなしすることで、山鹿の魅力がより伝わり、交流・関係人口の増加につながることから、人材育成の支援や仕組みづくりを図ります。
- ・A I など技術革新に加え、多様化する情報化社会において、SNSなどを駆使し、多様な世代に山鹿の魅力を積極的に発信します。

②公園・広場等の機能充実と適正管理

【身近な公園・広場等】

- ・ 日常的な遊びや交流の場となる公園・広場等については、人口バランスに配慮しながら適正な配置に努めます。
- ・ 宅地開発等では、良好な住環境の形成に向けて、公園・広場等の整備を指導します。
- ・ 激甚化、頻発化する災害に備え、防災機能に配慮した公園づくりに努めるとともに、既存公園においても、防災機能の向上を検討します。
- ・ 施設の点検や改修を計画的に実施しつつ、地域住民と協力しながら維持管理を進め、利用満足度を高めます。

【その他の公園・広場等】

- ・ 一本松公園やあんずの丘、日輪寺公園、山鹿歴史公園など自然や歴史文化とふれあうことができる公園の機能強化を図り、市民のリフレッシュや健康増進、交流促進などにつなげます。
- ・ 山鹿墓地公園の適正な管理や利用の促進を図ります。
- ・ 鞠智城周辺では、一帯の豊かな自然環境を保全するとともに、国営公園化を目指しつつ、公園機能の強化等を県に働きかけ、歴史文化資源としての魅力向上と良好な景観形成の創出を図ります。
- ・ カルチャースポーツセンターでは、自然とのふれあいや交流、憩い、余暇活動に加え、防災の観点から機能の維持・増進に努めるとともに、更なる整備の可能性についても検討します。
- ・ 適正な維持管理により公園施設の長寿命化を図るとともに、指定管理を継続しつつ、新たな民間活力の導入の可能性についても検討します。

③山鹿景観の創出

【山鹿の自然景観づくり】

- ・山鹿市の魅力や市民の郷土愛の源となる八方ヶ岳や国見山などの山林、菊池川などの河川、農地などの豊かな自然環境について、農林業の振興や自然とのふれあい空間の整備などと併せて適切な維持管理を図り、四季折々の表情と潤いをもたらす良好な自然景観を創出します。

【山鹿の歴史・文化景観づくり】

- ・豊前街道や鞠智城公園周辺など、歴史・文化が刻まれた特色ある地区（山鹿市景観計画における景観形成重点地区、景観形成誘導地区など）では、これら歴史・文化資源の保全はもとより、周辺の自然環境など地域の特色を構成する様々な要素の保全を図り、人々を惹きつける魅力ある歴史・文化景観を創出します。
- ・また、これら歴史・文化景観と山鹿灯籠などの伝統文化や市民によるまちおこし活動との連携を図ることで山鹿の新たな魅力を創出し、観光振興など交流・関係人口の拡大につなげます。

【山鹿の都市景観づくり】

- ・山鹿の顔となる中心市街地においては、歴史文化と賑わいが融合したおもてなしの都市景観を創出します。
- ・また、国道3号及び国道325号等は、本市への主なアクセス道路となることから、広告等の整序、案内サインの統一など、印象を良くする都市景観を創出します。

【山鹿の居住景観づくり】

- ・樹林地や農地など市街地における良質な緑地の保全、公園・広場等の整備、緑化の促進などにより、日常生活に心のゆとりや安らぎをもたらす居住景観を創出します。

【山鹿の景観形成の進め方】

- ・良好な景観形成を進めていくためには、市民・事業者の理解と協力、主体的な取組が不可欠です。そのため、普及・啓発活動や人材育成、団体等の活動支援、参加型まちづくりの仕組みづくりなど、協働による景観づくりを推進します。
- ・市民・事業者・行政など多様な主体が協力し、良好な景観を形成するための指針として、景観法に基づく山鹿市景観計画を平成20年に策定し、これに基づき景観づくりを進めてきました。策定から10数年が経過したことから、市民の景観に対する意識、開発動向、まちづくりの方向性などを総合的に鑑み、必要に応じて景観計画の見直しを図ります。

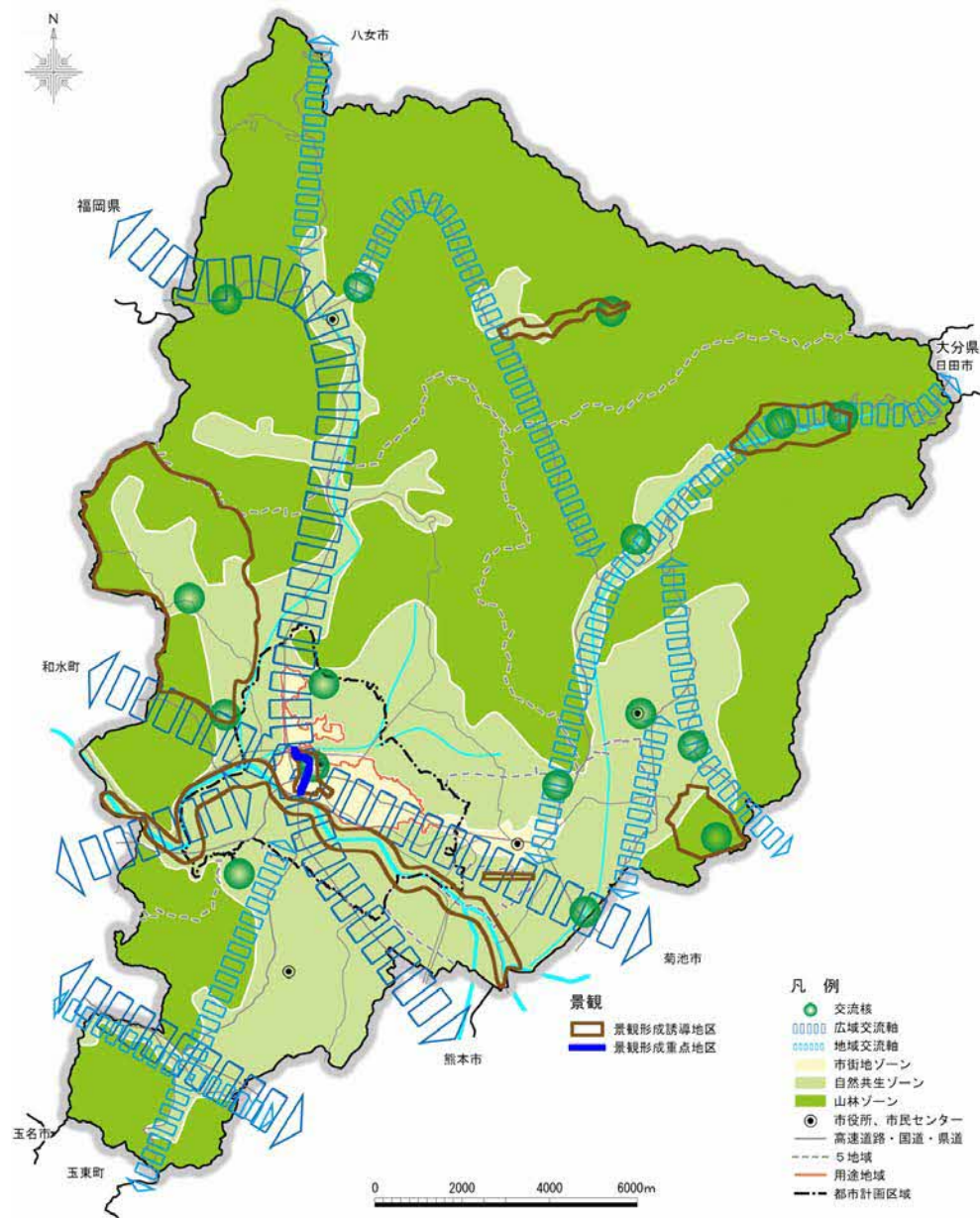
④循環型社会の構築

【資源・エネルギーの有効活用】

- ・温暖化など地球レベルでの環境問題に取り組むため、各家庭や工場・事業所、公共施設等において、積極的な省エネ活動や新エネ利用を促進するとともに、これらの活動を支援します。

【環境負荷の軽減】

- ・緑化促進や渋滞解消など、日常生活や都市活動で排出される温室効果ガスの量を削減等する取組を推進します。
- ・また、政府が目指すカーボンニュートラルの実現に向けて、自然環境への影響に配慮しながら太陽光発電などのクリーンエネルギーの利用を推進するとともに、経済社会システム全体を変革しようとする取組（GX：グリーントランスフォーメーション）を促進します。



1) 基本方針

- ・下水道や上水道、河川、公共施設など市民の生活を支える生活環境施設について、計画的な整備や維持管理を図るとともに、多様化するニーズなど時代背景を踏まえた機能拡充を図り、安定したサービスの提供と利用満足度の向上を目指します。

2) 生活環境施設の整備方針

①良質な暮らしを実現する生活環境施設の整備等

【下水道】

- ・人口減少下や施設の老朽化等が顕在化している中、持続的な下水道事業の運営に向けて、効率的な投資計画に基づき、処理場・ポンプ場や管路施設の改築・更新を図っていきます。また、未接続世帯の水洗化促進に取り組みます。
- ・下水汚泥の集約処理や、公共下水道と農業集落排水において、共同で利用できる施設の整備による処理の効率化を図ります。

【上水道】

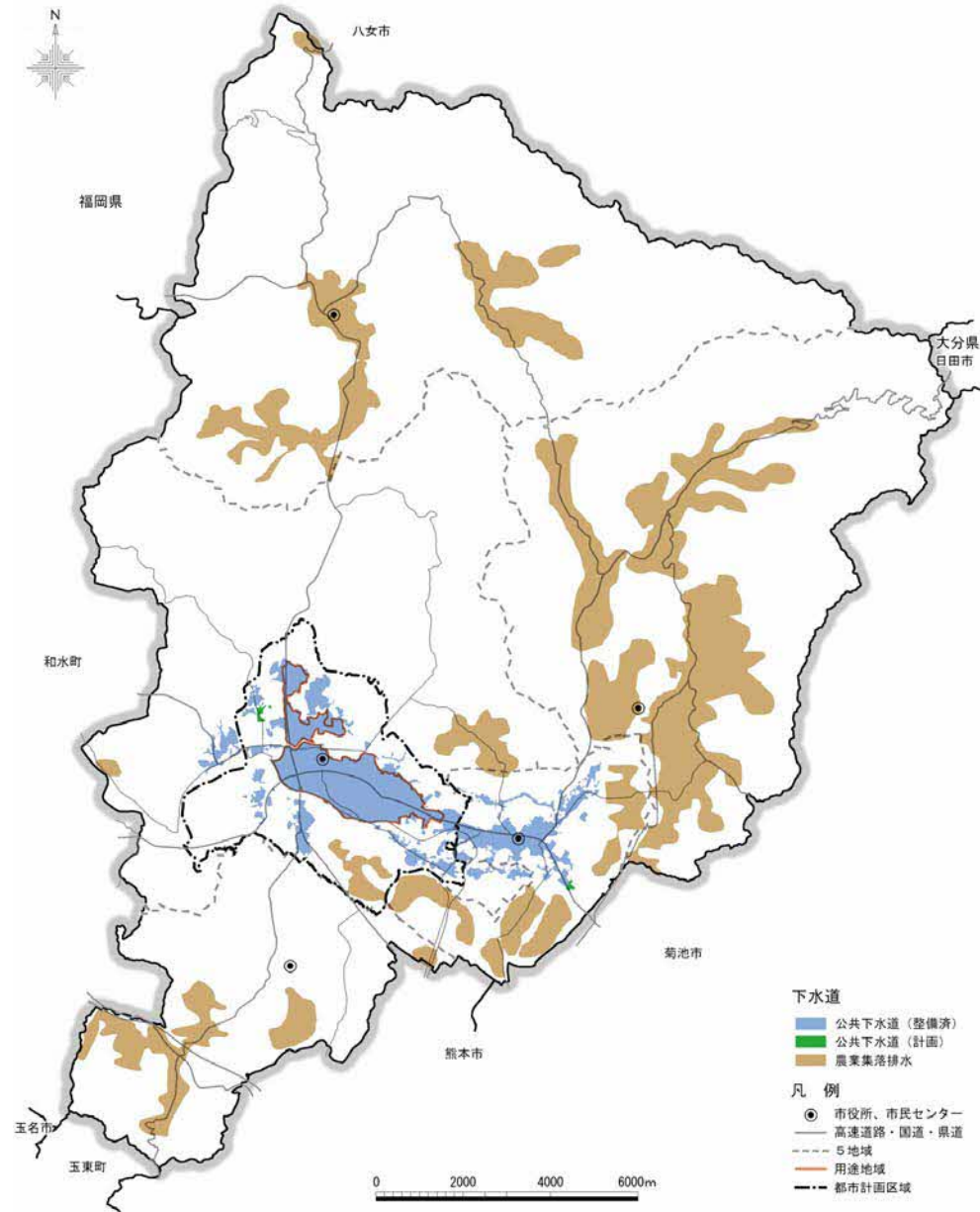
- ・水道ビジョンに基づき、安心で安定的な水道水供給、災害に強い水道施設、効率的・安定的な経営体制により、利用者のニーズに応じた水道事業を進めていきます。

【河川】

- ・水辺が生活に密着していることから、親水性に優れた河川環境の創出や維持管理を市民とともに進め、暮らしの質の向上、まちの活性化につなげます。

【その他公共施設等】

- ・「山鹿市公共施設等総合管理計画」に基づき、施設等の更新や長寿命化を計画的に進め、財政負担の平準化、効率的で効果的な維持管理による持続可能な行政サービスの提供を図ります。
- ・また、ニーズの多様化を的確に捉え、機能拡充などによる効果的な整備についても検討します。



1) 基本方針

- ・防災、防犯・交通安全、福祉・健康について、ハード・ソフト両面から効果的な対策を実施することにより、安全・安心に住み続けることができるまちづくりを進めていきます。

2) 生活環境施設の整備方針

①災害に強いまちづくり

- ・今後も気候変動による水害の激甚化・頻発化が懸念されることから、河川改修による安全性の確保はもちろんのこと、集水域から氾濫域にわたる流域に関わる関係者（国、県、市、事業者、住民）が協働して水害の被害を軽減させる流域治水を推進します。
- ・都市化に伴い、排水インフラの能力を超えた雨水が集中し、内水氾濫による被害を引き起こしていることから、河川や水路、公共下水道の整備に加え、老朽ため池の改修、雨水貯留機能の拡大、土地利用の誘導などの対策を図ります。

■流域治水（国交省）



- ・森林法などに基づき森林造成や維持を図るとともに、土砂災害の危険個所の防災対策を関係機関に積極的に要請します。
- ・建築物、土木構造物、通信施設、ライフライン施設、防災関連施設などの耐震性を確保するとともに、代替性の確保、多重化等により、災害に強い都市基盤を目指します。
- ・土地利用や道路・公園整備、市街地整備などが一体となった、強靱な都市づくりを目指します。
- ・避難所や避難場所など被災時に核となる施設では、耐震化や不燃化、施設の拡充、備蓄、感染症対策など防災機能の強化を図るとともに、管理や避難誘導、収容体制等を含めた新たな施設の確保を検討します。
- ・大規模災害等からの迅速な復旧・復興に向けて、復興事前準備の取組を検討します。
- ・正確な情報を迅速に市民へ伝達するため、防災情報の収集・伝達体制を整備するとともに、ICTの活用など情報伝達手段の多様化を図ります。
- ・住宅等が密集する市街地や集落地では、避難路やオープンスペースの確保、狭隘道路の改善、消防水利の整備などを図るとともに、地域コミュニティの維持・向上、意識啓発、防災活動支援などを図り、ハード・ソフト両面から防災・減災を目指します。
- ・不可避な災害による被害を最小限に抑える減災を進めるためには、地域防災力の強化が必要です。こうしたことから、防災マップや広報の配布、ホームページの更新など積極的な情報発信に加え、自助・共助による防災意識の醸成、自主防災組織の活動支援、防災教育など、地域防災力の強化に向けた取組を推進します。

②防犯・福祉など安心なまちづくり

【交通安全・防犯】

- ・通学路を中心に、歩行者の安全確保に配慮した道路整備や通行制限など交通規制の導入などを進めます。
- ・交通安全施設の点検や整備、危険個所の改善を図るとともに、交通安全意識の普及・啓発活動を進め、交通事故の防止に努めます。
- ・防犯灯・防犯カメラの適正な維持管理や地域防犯活動などにより、地域ぐるみで防犯体制の構築・充実を図ります。

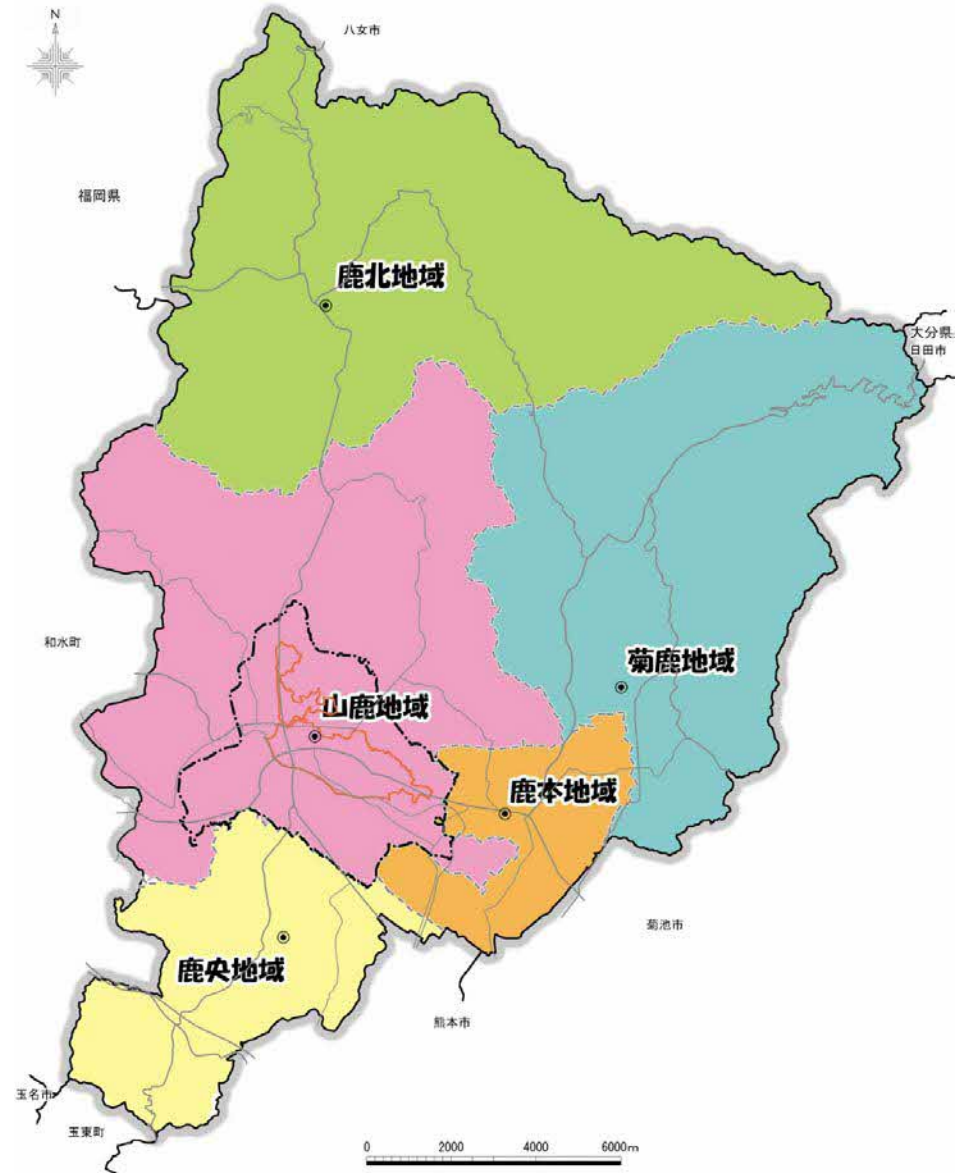
【福祉・健康】

- ・全ての人々が平等に暮らし、いきいきと活動する社会を目指した「ノーマライゼーション」の考えに基づき、不特定多数が利用する道路や公園、公共施設等のバリアフリー化など、暮らしにおけるユニバーサルデザインを推進します。
- ・身近な歩行環境の整備、自転車通行空間の確保、公園・広場等の機能拡充など、市民の健康増進を支援し、健康寿命の延伸を図ります。

≫ 地域別構想とは、各地域の特性や役割を明らかにした上で、全体構想との整合を図りつつ、地域で取り組むべき基本の方針を示すものです。

なお、地域別構想は、各地域がそれぞれに地域づくりを進めるための指針ではなく、各地域の連動による相乗効果で山鹿ブランドを高め、山鹿のまちづくりに展開していくための指針とするものです。

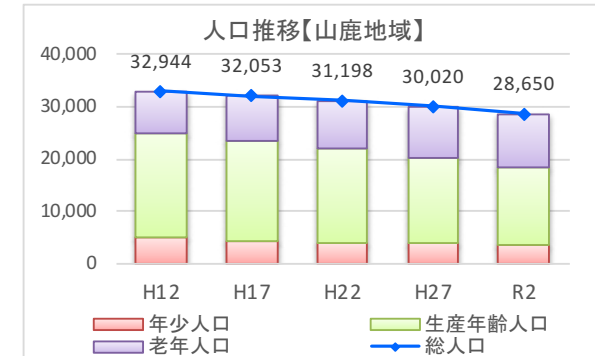
≫ 地域区分は、地形的・地理的条件や歴史的背景、日常生活の圏域などを総合的に勘案し、まとまりのある空間として、旧市町界を基本とした山鹿・鹿北・菊鹿・鹿本・鹿央の5地域を設定します。



① 地域の概況等

【概況】

- 山鹿市の中心地、県北の生活圏の中心的役割を期待される地域であり、商業・業務、医療、教育、行政など広域性の高い都市機能が集約しています。
- 令和2年時点で市全体の5割を超える28,650人が居住する地域ですが、人口は減少傾向にあり、核家族化（2.46人/世帯）や市街地縁辺部の開発などにより、人口密度の低下、都市機能の衰退など都市活力の低下が伺えます。
- 一部区域で都市計画区域及び用途地域が指定され、国道325号沿いでは、鹿本地域との土地利用の連担性が高まっています。
- 市街地では木造建築物の密集が見られ、災害時の大きな被害が懸念されます。
- 本地域を中心に幹線道路網が放射線状に発達し、山鹿バスセンターが整備されていることから、山鹿市における交通の要衝となっています。
- 八千代座、豊前街道を中心とした多くの観光・交流施設等を有し、山鹿市における魅力の発信拠点となっています。
- 交通利便性などの優位性から、東部工業団地などの産業核を有しています。

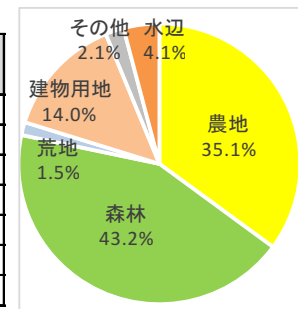


【山鹿】	H12	H17	H22	H27	R2
総人口 (地域/全市)	32,944 (55.4%)	32,053 (55.5%)	31,198 (56.3%)	30,020 (57.4%)	28,650 (58.4%)
年少人口 (0～14歳)	5,037 (15.3%)	4,400 (13.7%)	4,032 (12.9%)	3,873 (12.9%)	3,670 (12.8%)
生産年齢人口 (15～64歳)	19,983 (60.7%)	19,007 (59.3%)	17,919 (57.4%)	16,328 (54.4%)	14,696 (51.3%)
老年人口 (65歳以上)	7,924 (24.1%)	8,565 (26.7%)	9,099 (29.2%)	9,789 (32.6%)	10,174 (35.5%)
世帯 (世帯人員)	11,291 (2.92人)	11,523 (2.78人)	11,624 (2.68人)	11,581 (2.59人)	11,640 (2.46人)

資料：国勢調査

■ 土地利用【山鹿】

	面積 (ha)	割合 (%)
農地	3,048.7	35.1
森林	3,750.1	43.2
荒地	132.6	1.5
建物用地	1,219.0	14.0
その他の用地	183.7	2.1
水辺	354.8	4.1
合計	8,688.9	100.0

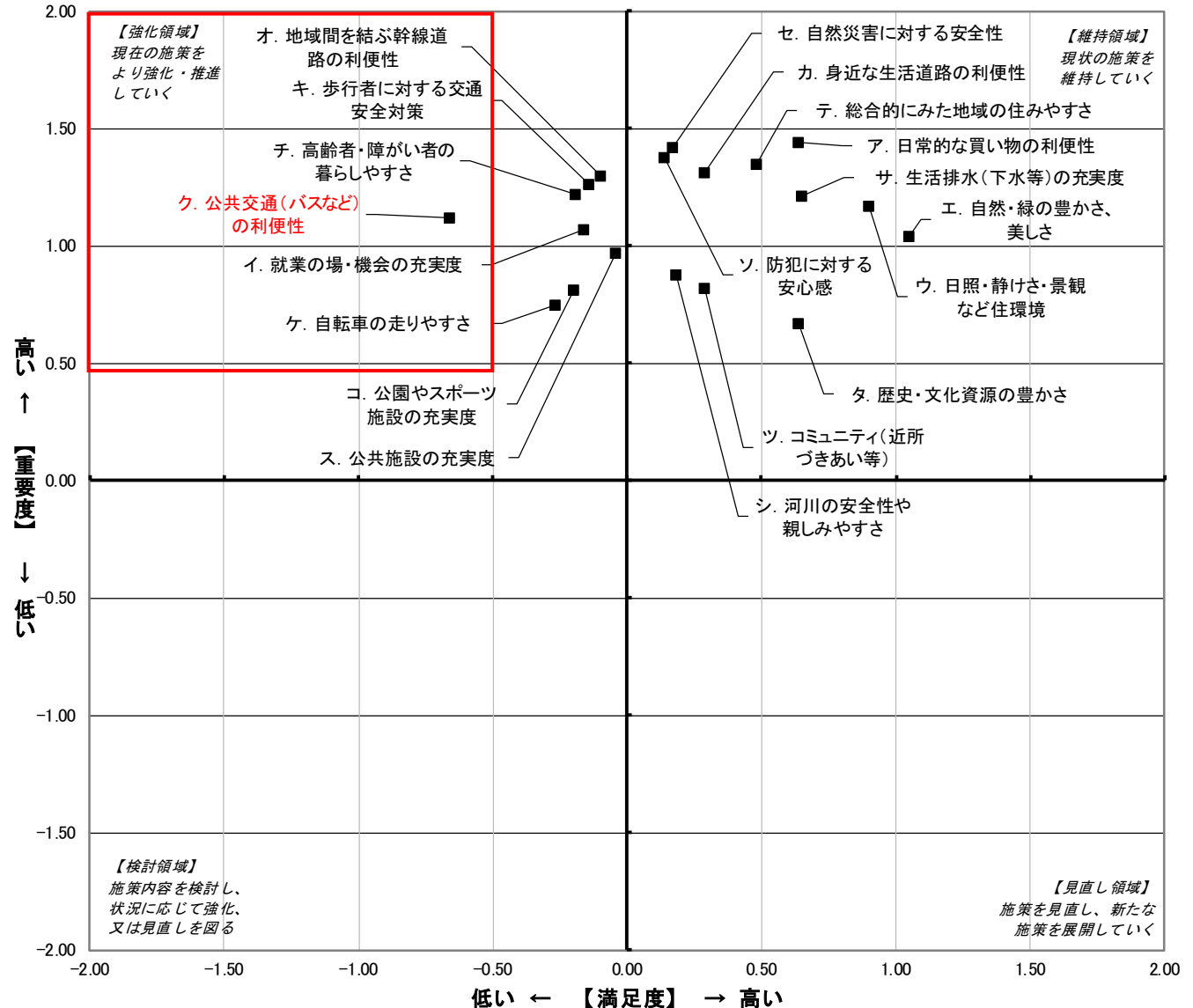


出典：土地利用細分メッシュ(国土数値情報)

【住民意向】

・山鹿地域の「満足度」「重要度」に関する地域住民の意向をみると、満足度が低く重要度が高い「強化領域」に8項目が属しており、その中でも「公共交通（バスなど）の利便性」は、より施策の強化・推進が求められています。

居住地域の「満足度」「重要度」の散布図【山鹿地域】



※満足度と重要度の数値は、各設問の「満足・重要」を2点、「やや満足・やや重要」を1点、「どちらでもない」を0点、「やや不満・あまり重要でない」を-1点、「不満・重要でない」を-2点として算出した得点の平均である

②地域の主要課題

【地域の魅力】

- ・山鹿市の顔として、おもてなしの空間を演出することが重要です。
- ・多くの観光・交流施設等を生かし、山鹿らしさの中核としての役割を果たすことが重要です。
- ・交通利便性などの優位性などから、新たな産業用地の確保が重要です。

【暮らし】

- ・山鹿市の中心として地域活力の維持向上を目指すため、利便性が高く、投資効果の高いコンパクトなまちづくりが重要です。
- ・開発動向等に応じた計画的な土地利用が重要です。
- ・まちなかで多様な世代が安全・安心・快適に暮らすため、居住環境の整備などが重要です。
- ・山鹿市の中心として、拠点及び交流核とのアクセスの充実が重要です。

魅力と利便性を高め、人々を惹きつける地域 “やまが”

◆おもてなしの魅力があふれる地域づくり

多くの観光・交流施設等を生かすとともに、景観づくりや施設整備、人材育成などを図り、おもてなしの空間として人々を惹きつける地域づくりを進めます。

◆暮らしの利便性が高い地域づくり

計画的な土地利用や居住環境の整備、アクセスの充実などにより、まちなかの人口規模・密度の確保や都市機能の維持・向上を図り、山鹿市の中心地として人々を惹きつける地域づくりを進めます。

①おもてなしの魅力あふれる地域づくり

【都市拠点】

- ・本市の「顔」である中心市街地において、八千代座を中心に豊前街道やさくら湯など本市を代表する歴史・文化・自然資源を生かし、歩行環境の改善や賑わい・ふれあいを創出する空間整備、商店街など地域の創意工夫による取組支援などを進めることにより、魅力ある観光市街地を目指します。
- ・また、本市の観光交流の中核として、市内の観光交流施設や宿泊施設等とも連携し、滞在型の観光地づくりに努めます。
- ・さくら湯については、山鹿温泉のシンボルとして適切な管理運営を図るとともに、活性化の拠点としての活用を図ります。
- ・治安、景観、居住環境、産業基盤の悪化、災害危険度の増大などのリスクを有する空き家や空き店舗を積極的に活用し、中心市街地における暮らしの質や活力の向上を図ります。
- ・来訪者の動線、まちなかの歩きやすさ、各種拠点施設へのアクセス性を考慮し、利便性の高い駐車場の整備を検討します。

【交流核】

- ・温泉施設が集積し、山鹿の奥座敷として人気の高い平山温泉では、温泉や農業等の地域資源の活用やアクセス機能の充実、観光地としての演出などを進めるとともに、地域活動団体との連携を強化することにより、観光交流機能の充実を図ります。
- ・平山温泉地区を交流核に位置づけ、体験農業や文化資源の活用などを図りながら、都市拠点やその他の交流核との連携を強化し、滞在型の観光地づくりに努めます。

【川づくり】

- ・菊池川が有する多様な機能を生かし、市民に親しまれる散策路やレクリエーション機能の整備を図ることで、親水性に優れた河川空間を創出します。
- ・また、河川に近接する地域特性を生かし、水辺と歩行者ネットワークの融合による、回遊性の高い地域づくりを進めます。これにより、来訪者が水辺にふれあう機会が創出され、観光交流の機能増進につながることも期待されます。

【産業】

- ・都市活力の向上や雇用の場の創出となる企業誘致に向けて、交通利便性の優位性がより発揮される通称国体道路沿いなどを中心に企業用地の適地を選定し、都市基盤整備など操業環境の充実に努めます。

②暮らしの利便性高い地域づくり

【土地利用】

- ・多様な機能の集積による利便性の高い中心市街地及び既成市街地では、計画的な土地利用とともに、密集市街地の改善や都市基盤の整備、空き家対策などにより、誰もが住みやすく歩いて暮らせるコンパクトなまちづくりを推進します。
- ・開発動向などに応じて都市計画区域の再編や用途地域の見直しを検討します。特に、桜町周辺や幹線道路周辺など開発動向が活発な区域では、農地振興との調整を図りつつ、土地利用のあり方などを鑑み、適正な土地利用の規制・誘導について検討します。
- ・市街地周辺の集落地では、営農環境の保全と良好な住環境の形成に向けて、自然環境と生活環境が調和した土地利用を図ります。
- ・営農環境の維持・向上を図るとともに、豊かな自然が織り成す良好な景観の保全を図るため、優良農地の保全・整備を図ります。
- ・訪れる人が自然とふれあい、安らぎを感じることができる空間として、菊池川をはじめとする豊かな自然環境の保全・活用を図ります。

【都市施設等】

- ・都市拠点では、都市全体の観点から必要とされる多様なニーズに応じた都市機能を集積するとともに、道路や公共施設等のバリアフリー化や公園の機能充実など各種基盤整備を実施し、多様な人々が住み、訪れ、楽しむ場所として魅力のある空間形成を図ります。

- ・居住環境の改善や交流促進に向けて、幹線道路をはじめとした道路の維持・整備を推進します。
- ・集落地では、拠点へのアクセス向上や地域防災の観点からも、狭隘道路の改善、バリアフリー道路の整備を進めます。
- ・観光施設、歴史・文化資源等が集積する本地域の回遊性や来訪者の利便性を高めるため、誘導サインの整備を進めます。
- ・路線バスやあいのリタクシーなど地域の実情に応じた公共交通の改善を進めます。
- ・モビリティ・マネジメントやMaaSなど新たな公共交通に関する考え方を取り入れつつ、AIやIoTなど今後の技術革新を視野に入れ、高齢化や過疎など地域が抱える課題に対応した公共交通のあり方を検討します。
- ・山鹿バスセンターを広域的な公共交通の拠点施設として機能強化し、九州新幹線新玉名駅や菊水IC、植木IC、周辺自治体へのアクセス強化を図ります。
- ・公共下水道および農業集落排水事業の区域外においては、浄化槽設置を促進します。
- ・災害時の活動や復興の拠点となることから、公共施設等の耐火・耐震、防災機能の充実を図るとともに、地域住民の防災意識の向上を図り、自主防災組織の設立や防災訓練などを通じて、地域防災体制の構築・強化を促進します。

【地域コミュニティ】

- ・豊前街道周辺や平小城地区周辺の景観形成、商観光の活性化に向けた空き店舗の活用など、地域特性やニーズに応じた質の高い地域づくりを進めるため、住民参画を積極的に促すほか、住民主体の活動支援、新たな仕組みづくり、連携強化などを図ります。

①おもてなしの魅力があふれる地域づくり

【都市拠点】

- ・魅力ある観光市街地
- ・滞在型の観光地づくり
- ・活性化の拠点（さくら湯）
- ・暮らしの質や活力の向上
- ・利便性の高い駐車場整備の検討

【交流核】

- ・観光交流機能の充実
- ・滞在型の観光地づくり

【川づくり】

- ・親水性に優れた河川空間の創出
- ・回遊性の高い地域づくり

【産業】

- ・企業用地の適地選定と操業環境の充実

②暮らしの利便性が高い地域づくり

【土地利用】

- ・計画的な土地利用、コンパクトなまちづくり
- ・都市計画区域の再編や用途地域の見直しの検討
- ・自然環境と生活環境が調和した土地利用
- ・優良農地の保全・整備
- ・豊かな自然環境の保全・活用

【都市施設等】

- ・住み、訪れ、楽しむ場所として魅力ある空間形成
- ・道路の維持・整備、狭隘道路の改善、誘導サインの整備など
- ・公共交通の改善やあり方検討、山鹿バスターの機能強化
- ・浄化槽設置の促進
- ・地域防災体制の構築・強化

【地域コミュニティ】

- ・住民参画、住民主体の活動支援、新たな仕組みづくり、連携強化



凡 例

- 都市拠点
- 交流核
- 産業核
- ◆ 観光交流施設等
- 市街地ゾーン
- 自然共生ゾーン
- 山林ゾーン
- ◎ 市役所、市民センター
- 高速道路・国道・県道
- - - 5地域
- 用途地域
- - - 都市計画区域

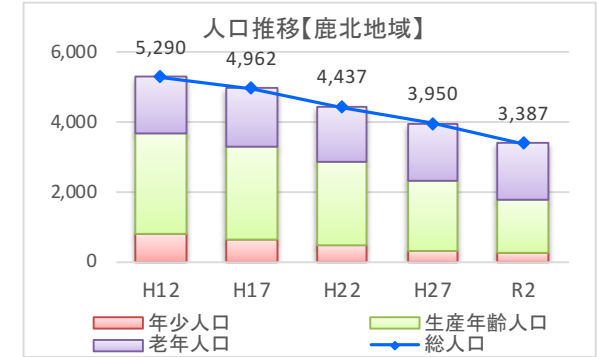
用途地域

- 第一種低層住居専用地域
- 第一種中高層住居専用地域
- 第一種住居地域
- 第二種住居地域
- 近隣商業地域
- 商業地域
- 準工業地域
- 工業地域

①地域の概況等

【概況】

- ・山鹿市の北部、福岡県との県境に位置し、国見山をはじめとする山々に囲まれた自然豊かな地域であり、岩野川流域の限られた平地に農地や集落が形成されています。
- ・令和2年時点で市全体の7%程度の3,387人が居住する地域ですが、人口は減少傾向にあり、高齢化率が47.4%と地域活力の低下が伺えます。
- ・本地域に都市計画区域は指定されていません。
- ・基幹産業である農林業の担い手が不足し、農地や山林の荒廃が進んでいます。
- ・山間部に位置する本地域は、土砂災害のリスクが高くなっています。
- ・幹線道路として国道3号が南から生活拠点を経由して西に走り、生活拠点から北に（主）黒木鹿北線、南東に（主）菊池鹿北線が走っています。
- ・道の駅かほく（小栗郷）を中心に、都市と農村の交流や自然体験、地域活力の向上にかかる取組が進められています。
- ・「鹿北茶山唄全国大会」「かほくまつり」などの文化活動が継承されています。

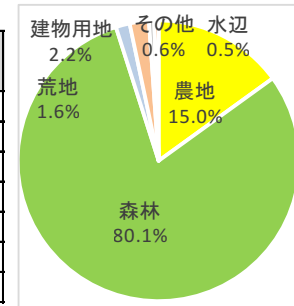


【鹿北】	H12	H17	H22	H27	R2
総人口 (地域/全市)	5,290 (8.9%)	4,962 (8.6%)	4,437 (8.0%)	3,950 (7.6%)	3,387 (6.9%)
年少人口 (0～14歳)	793 (15.0%)	634 (12.8%)	455 (10.3%)	342 (8.7%)	283 (8.4%)
生産年齢人口 (15～64歳)	2,908 (55.0%)	2,680 (54.0%)	2,390 (53.9%)	1,985 (50.3%)	1,494 (44.1%)
老年人口 (65歳以上)	1,589 (30.0%)	1,648 (33.2%)	1,591 (35.9%)	1,623 (41.1%)	1,604 (47.4%)
世帯 (世帯人員)	1,465 (3.61人)	1,464 (3.39人)	1,376 (3.22人)	1,335 (2.96人)	1,251 (2.71人)

資料：国勢調査

■土地利用【鹿北】

	面積 (ha)	割合 (%)
農地	1,292.7	15.0
森林	6,925.8	80.1
荒地	137.2	1.6
建物用地	187.6	2.2
その他の用地	56.1	0.6
水辺	42.8	0.5
合計	8,642.2	100.0

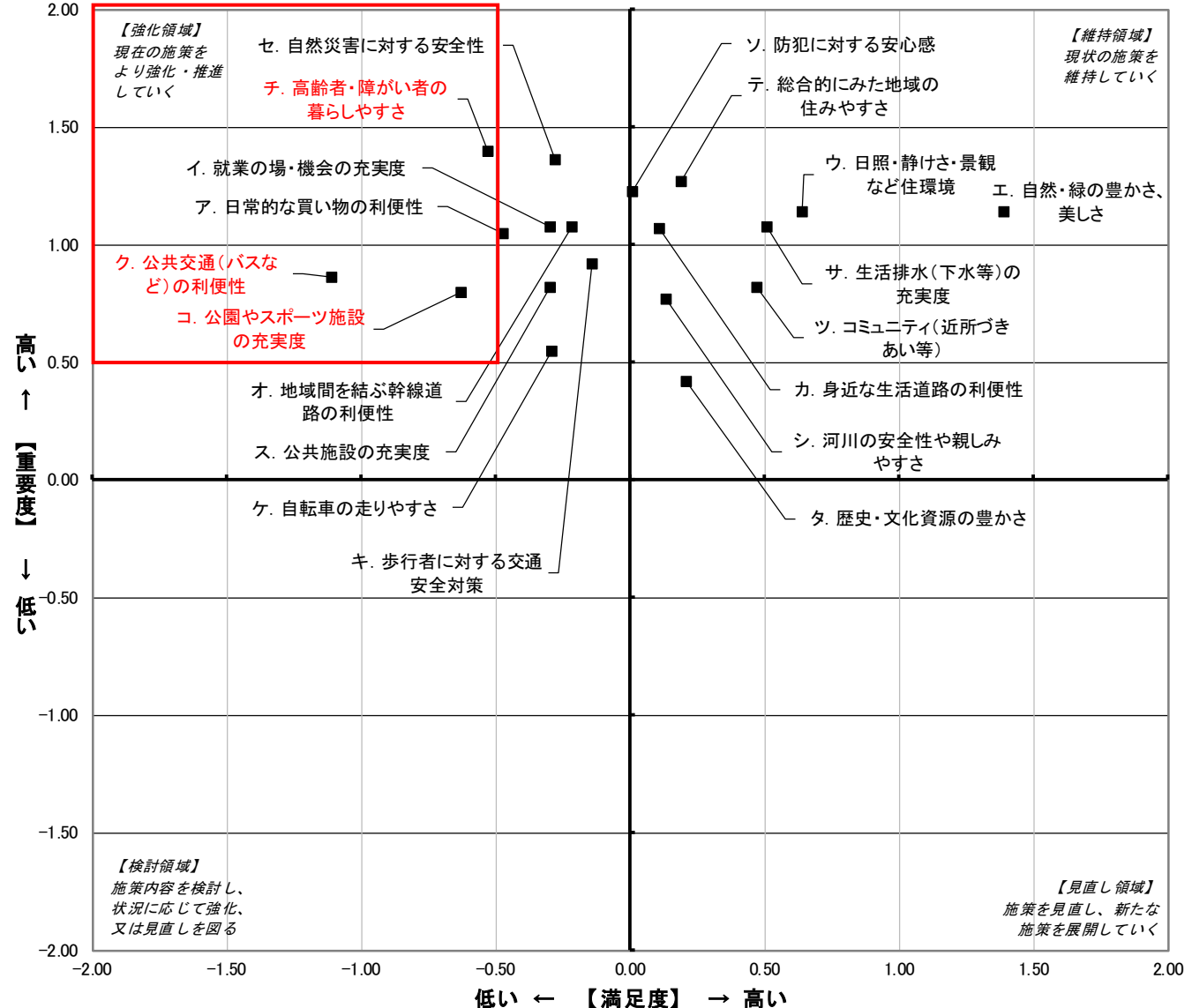


出典：土地利用細分メッシュ(国土数値情報)

【住民意向】

・鹿北地域の「満足度」「重要度」に関する地域住民の意向をみると、満足度が低く重要度が高い「強化領域」に10項目が属しており、その中でも「公共交通（バスなど）の利便性」「公園やスポーツ施設の充実度」「高齢者・障がい者の暮らしやすさ」は、より施策の強化・推進が求められています。

居住地域の「満足度」「重要度」の散布図【鹿北地域】



※満足度と重要度の数値は、各設問の「満足・重要」を2点、「やや満足・やや重要」を1点、「どちらでもない」を0点、「やや不満・あまり重要でない」を-1点、「不満・重要でない」を-2点として算出した得点の平均である

②地域の主要課題

【地域の魅力】

- ・豊かな自然環境や歴史・文化を保全・活用し、穏やかで潤いのある地域づくりを進めることが重要です。
- ・基幹産業である農林業の振興を図りつつ、6次産業化など新たな魅力を創出し、都市住民との交流による地域活力の向上を図ることが重要です。
- ・スローライフなど多様化するニーズに適応した交流や暮らしの場づくりが重要です。

【暮らし】

- ・豊かな自然環境と融合した、持続可能でコンパクトなまちづくりが重要です。
- ・農林業の振興及び居住環境の確保の双方の観点から、土地利用のマネジメントが重要です。
- ・日々の暮らしの質を維持するため、居住環境の整備などが重要です。
- ・都市拠点とのアクセスの充実が重要です。

豊かな自然環境に抱かれ、穏やかな心を育む地域 “かほく”

◆自然の魅力を発信する地域づくり

岳間溪谷キャンプ場や道の駅かほく（小栗郷）などを通じて、自然とふれあう場づくりを進め、市内外の人々の穏やかな心を育む地域づくりを進めます。

◆豊かな自然環境と生活が共生する地域づくり

地域の8割を占める山林や岩野川など豊かな自然環境を保全するとともに、これらの恵みを楽しみつつ、生活の利便性を確保し、穏やかな心を育む地域づくりを進めます。

①自然の魅力を発信する地域づくり

【生活拠点】

- ・鹿北市民センター周辺は今後も地域の日常生活を支える拠点として、既存ストックを有効活用しながら公共サービス機能や生活利便施設の維持・向上に努め、持続可能でコンパクトな地域づくりを進めます。

【交流核】

- ・本市の北の玄関口としておもてなしの空間を演出するとともに、道の駅かほく（小栗郷）を拠点とする体験交流や観光資源の情報発信を強化します。
- ・伝統文化である鹿北茶山唄や岩野神楽などを継承するとともに、地域独自の情報として発信し続けることで、都市間交流や世代間交流を促進します。
- ・訪れる人が自然とふれあい、安らぎを感じることができる空間として、岳間溪谷をはじめとする豊かな自然環境の保全・活用を図ります。

【産業】

- ・農林業従事者、地域住民、関係機関、行政が連携して農林業の活性化に積極的に取り組みます。
- ・6次産業化等による地域農産物等の販売を強化し、地産地消の推進、農業経営の活性化を図ります。

②豊かな自然環境と生活が共生する地域づくり

【土地利用】

- ・ 営農環境の保全と良好な居住環境の形成の両立に向けて、各種法規制による適正な土地利用の誘導を図ります。
- ・ 耕作放棄地の発生抑制を図るとともに、人口減少・高齢化がもたらす影響を見越しながら、土地の利用・管理のあり方を検討します。
- ・ 営農環境の維持・向上を図るとともに、豊かな自然が織りなす良好な景観を守るため、住環境と調和した土地利用を誘導しながら、優良農地の保全・整備を図ります。
- ・ 水源かん養、治山をはじめとする防災対策など、森林が持つ多面的機能の維持・増進を図るため、森林地域の保全・整備を図ります。

【都市施設等】

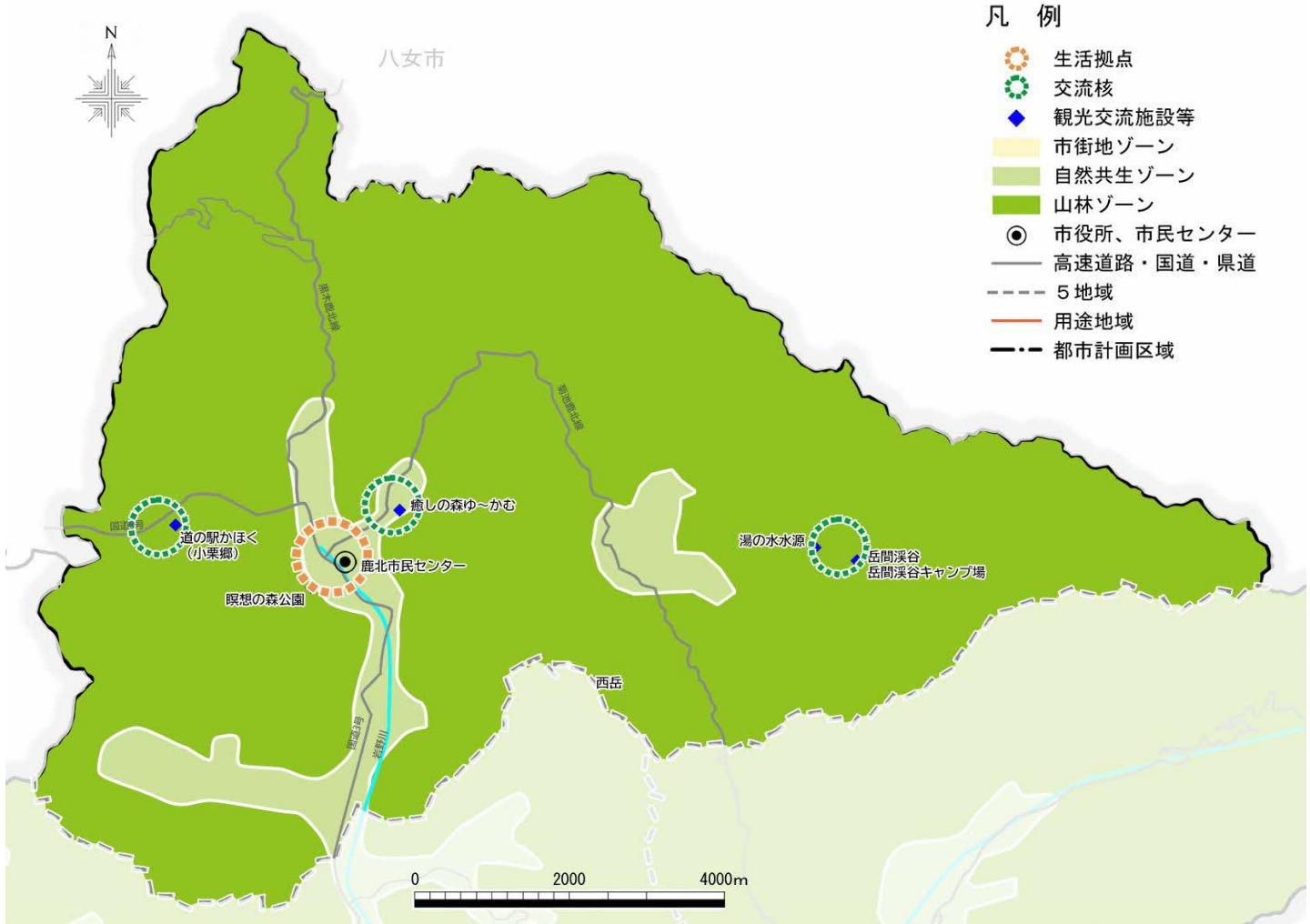
- ・ 居住環境の改善や交流促進に向けて、幹線道路をはじめとした道路の維持・整備を推進します。
- ・ 拠点へのアクセス向上や地域防災の観点からも、狭隘道路の改善、歩車分離の道路整備を進めます。
- ・ あいのりタクシー制度の充実により、地域の実情に応じた公共交通の改善を進めます。
- ・ モビリティ・マネジメントやMa a Sなど新たな公共交通に関する考え方を取り入れつつ、A IやI o Tなど今後の技術革新を視野に入れ、高齢化や過疎など地域が抱える課題に対応した公共交通のあり方を検討します。
- ・ 施設の適正な配置や機能の充実など、公園やスポーツ施設の充実を図ります。
- ・ 農業集落排水事業の区域外においては、浄化槽設置を促進します。
- ・ 地域住民の安全で良質な飲用水を確保するため、水道の整備を進めます。
- ・ 山間部に位置し、土砂災害のリスクが高いことから、治山・治水を推進するとともに、開発規制や建築物の構造規制、警戒避難体制の整備などを推進します。
- ・ 公共施設等の耐火・耐震、防災機能の充実を図るとともに、地域住民の防災意識の向上を図り、自主防災組織の設立や防災訓練などを通じて、地域防災体制の構築・強化を促進します。
- ・ 子育て環境の充実に向けて、地域特性に応じた子育て支援センターのあり方を検討します。

【地域コミュニティ】

- ・ 道の駅かほく（小栗郷）での地元特産品等の販売など、地域特性やニーズに応じた質の高い地域づくりを進めるため、住民参画を積極的に促すほか、住民主体の活動支援、新たな仕組みづくり、連携強化などを図ります。

- ①自然の魅力を発信する 地域づくり
- 【生活拠点】
- ・持続可能でコンパクトな地域づくり
- 【交流核】
- ・おもてなし空間の創出
 - ・道の駅かほく（小栗郷）を拠点とする体験交流や情報発信
 - ・伝統文化の継承と発信による都市間交流や世代間交流の促進
 - ・豊かな自然環境の保全・活用
- 【産業】
- ・農林業の活性化
 - ・地産地消の推進、農業経営の活性化

- ②豊かな自然環境と生活が共生する地域づくり
- 【土地利用】
- ・適正な土地利用の誘導
 - ・土地の利用・管理の選択の検討
 - ・優良農地の保全・整備
 - ・森林地域の保全・整備
- 【都市施設等】
- ・道路の維持・整備、狭隘道路の改善など
 - ・公共交通の改善やあり方検討
 - ・公園やスポーツ施設の充実
 - ・浄化槽設置の促進
 - ・水道の整備
 - ・治山・治水、開発規制や建築物の構造規制、警戒避難体制の整備
 - ・地域防災体制の構築・強化
 - ・子育て支援センターのあり方検討
- 【地域コミュニティ】
- ・住民参画、住民主体の活動支援、新たな仕組みづくり、連携強化



- 凡 例
- 生活拠点
 - 交流核
 - 観光交流施設等
 - 市街地ゾーン
 - 自然共生ゾーン
 - 山林ゾーン
 - 市役所、市民センター
 - 高速道路・国道・県道
 - 5地域
 - 用途地域
 - 都市計画区域

目 次

序 章 導入編.....	1
1 都市計画マスタープラン制度.....	3
2 山鹿市都市計画マスタープラン.....	5
第1章 概況編.....	7
1 まちづくりの概況.....	9
1-1 まちづくり全般.....	9
1-2 都市計画分野.....	14
2 まちづくりの課題.....	22
2-1 まちづくり全般.....	22
2-2 都市計画分野.....	23
2-3 まちづくりの課題図.....	24
第2章 全体構想編.....	25
1 まちづくりの将来像.....	27
1-1 まちづくりの目標.....	27
1-2 将来都市構造.....	31
2 まちづくりの方針.....	35
2-1 土地利用.....	35
2-2 道路・交通.....	41
2-3 山鹿らしさ.....	46
2-4 生活環境施設.....	53
2-5 安全・安心.....	55
第3章 地域別構想編.....	57
1 地域別構想について.....	59
2 地域別のまちづくり方針.....	60
2-1 山鹿地域.....	60
2-2 鹿北地域.....	66
2-3 菊鹿地域.....	71
2-4 鹿本地域.....	74
2-5 鹿央地域.....	77
第4章 実施編.....	81
1 役割分担.....	83
2 推進体制.....	84
◇ 資料編.....	1
1 まちの現状.....	3
1-1 広域的役割.....	3
1-2 人口等.....	6
1-3 産業等.....	21
1-4 土地利用.....	25
1-5 道路・交通.....	41
1-6 山鹿らしさ.....	46
1-7 生活環境施設.....	50

目 次

1-8 都市防災.....	52
2 上位・関連計画.....	57
3 市民意向.....	60
3-1 調査概要.....	60
3-2 調査結果.....	61

第3回までの協議会

本文あり

第4回協議会

本文あり

第5回以降の協議会

本文なし

第3回までの協議会

本文あり